

XR624 & XR824

Professional Studio Monitors

日本語オーナーズマニュアル



発行日 2017 年 6 月



安全の為に

この製品を設置、使用される前に必ずお読みください。

お使いになる方や周囲の方々への危害、財産への損害を防ぐため、下記の内容を守ってこの製品を安全にお使いください。本書はいつでもご覧になれる場所に保存してください。

本書で使用する記号について

	「必ず守ってください」という強制を表しています。		「絶対にしないでください」という禁止を表しています。
--	--------------------------	--	----------------------------



警告

この記号は取り扱いを誤ると死亡や重傷、火災の原因になる可能性がある内容に付いています。



本書を全て読むこと

この製品を設置、使用する前に必ず本書を全てよく読み内容に従ってください。



水分をかけたり湿気にさらさないこと

この製品の上に花瓶や飲み物など、液体が入ったものを置かないでください。また、この製品を雨や霧にさらさないでください。感電や火災、故障の原因になります。



電源コードは安全に配置すること

電源コードをストーブの近くなど高温になる場所に設置しないでください。また踏みんだり物に挟んだり、無理な配線を行うと、接続ケーブルが損傷して火災の原因になる場合があります。また足など体の一部を引っ掛けるような場所に配置しないでください。負傷の原因になる場合があります。



本体を落下しないこと

本体の故障はもちろん、周囲の方が負傷する原因になります。



異臭や異常を感じたら修理を依頼すること

正常に機能しない、接続ケーブルやプラグに異常がある等の場合は、修理をお申し付けください。



専用電源コードは仕様に適合した電源に接続すること

適合しない電源に接続すると、本体の故障、火災や感電の原因になる場合があります。



大音量で使わないこと

この製品をミキサーやオーディオプレイヤーなど他の機器と組み合わせて、大音量を再生しないでください。一時的または恒常的な難聴や、スピーカーなど接続している機器が故障する原因になる場合があります。



移動するときはケーブルを全て抜くこと

接続ケーブルを接続したまま本体を移動しないでください。ケーブルを痛めたり、周囲の方が転倒する原因になります。



本体内部に液体や物をいれないこと

火災や本体故障の原因になる場合があります。この場合は修理をご依頼ください。



改造を行わないこと

決して製品内部を開いたり、ユニットパネルを動かしたり、その他マニュアルに記載されていない調整を行わないでください。これらの行為は感電やその他災害に繋がる可能性があります。また、あなたの製品にも損害を与える可能性があります。製品内部を開くと、保証対象外となりますのでご注意ください。



電源コードを濡れた手でさわらないこと

感電の原因となる場合があります。

**警告**

この記号は取り扱いを誤ると死亡や重傷、火災の原因になる可能性がある内容に付いています。



必ず実行

長時間使用しない時や落雷の危険があるときは電源プラグを抜くこと

火災や感電、故障の原因になる場合があります。



必ず実行

電源コードは必ずこの製品に付属のものをを使うこと

適合しないものを使用すると通電中に電源コードが加熱し、火災の原因になる場合があります。



必ず実行

本体を移動する時は適切な人数で作業すること

移動の際は必ず適切な人数で作業を行って下さい。その際、つま先や指などを挟まないようご注意ください。



必ず実行

他の機器やミキサー等と接続するときは予め本機の電源を切っておくこと

接続時に大音量のノイズを発生し、聴覚異常やスピーカー破損の原因になる場合があります。



禁止

このスピーカーを吊り下げないこと

製品が落下して、近くにいる方が死亡または負傷する原因になる場合があります。このスピーカーは吊り下げて使うようには設計されていません。

**注意**

この記号は取扱を誤ると負傷、機器の損傷や物的損害の原因になる可能性がある内容に付いています。



必ず実行

本体は安定した場所に設置すること

本体を不安定な場所に設置すると、落下などによる故障の原因になります。



禁止

テレビ、ラジオ、携帯電話の近くで使用しないこと

この製品またはテレビやラジオなどに雑音が入る場合があります。



禁止

裸火を近づけたり熱源の近くに設置しないこと

この製品に直射日光を当てたり、ストーブなど熱源になるものの近くに置かないで下さい。本体が故障する原因になります。



必ず実行

スピーカーは定格範囲内で使用すること

定格範囲を超えるレベルや周波数を入力すると、スピーカーが故障する場合があります。特に歪にはご注意ください。



禁止

ボタンやスイッチ、入出力端子に無理な力を加えないこと

本体の故障やお使いになる方が怪我をする原因になります。

修理

- ・日本仕様の Mackie 製品の修理は、音響特機株式会社または提携サービスセンターで行っています。Mackie 製品の修理やメンテナンスが必要な場合は、次の手順に従ってください。
- ・本書でご紹介しているトラブルシューティングの内容を確認してください。
- ・テクニカルサポートに電話、もしくは support_mackie@otk.co.jp にメールをし、「メンテナンス申込書」を請求してください。「メンテナンス申込書」に必要事項をご記入の上、04-2944-3812 へ FAX してください。折り返し RA 番号と送付先のサービスセンターが記載された修理受付表を FAX で返送致します。RA 番号はサービスセンターへ送付される前に必ず取得してください。
- ・オーナーズマニュアルとケーブル類は同梱しないでください。修理には必要ありません。
- ・本体を梱包材とともに製品パッケージに入れて、サービスセンターへ送付してください。当社では輸送上のダメージを保証することができません。
- ・必ず、RA 番号が記載された修理受付表のコピーを同梱してください。また送り状の通信欄にも、RA 番号と商品名、製造番号を記載してください。RA 番号のない修理品は受付することができません。

保証

- ・本機の保証はご購入後 1 年間となっております。
- ・正常な使用状態で本体に不具合が生じた場合、正規のサービス担当者が無償で修理を行います。ただし、下記の場合は保証規定から除外されておりますので、予めご了承ください。
- ・お客様による輸送、移動中の落下、衝撃など、お客様のお取り扱いが適正ではなかったために故障が生じた場合
- ・お客様のご使用上の誤り、不適正な改造、弊社の認可のない改造及び修理が行われている場合
- ・火災、煙害、ガス害、地震、落雷、風水害などの天変地異、あるいは異常電圧などの外部要因によって故障が生じた場合
- ・本機に接続している機器及び消耗品に起因する故障、損傷
- ・正常な状態での使用中でも、自然消耗、摩耗、劣化によって故障あるいは損傷が生じた場合
- ・日本国外でご使用中の故障、損害

すべてのサポート・修理に関する情報は下記 Mackie 日本語ホームページをご参照ください。

mackie-jp.com/support

サポートセンター

〒359-0023 埼玉県所沢市東所沢 2-37-1

塚腰運送敷地内

☎ 04-2944-3811

FAX 04-2944-3812

✉ support_mackie@otk.co.jp

営業日 月曜日～金曜日 9:00～17:30

休業日 土曜日・日曜日・祝日・年末年始・夏季

営業窓口

東京 東京都中央区日本橋小伝馬町 10-1

☎ 03-3639-7800 (代表)

FAX 03-3639-7801

大阪 大阪府大阪市淀川区宮原 2-14-4

☎ 06-6152-7751

FAX 06-6152-7752

名古屋 愛知県名古屋市中区泉 1-23-30

☎ 052-950-3324

FAX 052-950-3325

広島 広島県広島市中区富士見町 16-22-604

☎ 082-258-2916

FAX 082-2582917

福岡 福岡県福岡市南区大橋 4-16-18-201

☎ 092-554-6066

FAX 092-554-6064

仙台 宮城県名取市杜せきのした 2-2-16-101

☎ 022-797-5281

FAX 022-797-5282

営業日 月曜日～金曜日 9:00～17:30

休業日 土曜日・日曜日・祝日・年末年始・夏季

ご質問は電子メールでも承ります。

✉ sales_mackie@otk.co.jp

Contents

XR シリーズの特徴	5
はじめに	6
クイックスタート	7
XR シリーズの低域特性とコントロールルームに関する重要な事項	7
低周波レスポンス	7
高周波レスポンス	7
その他の注意	7
設置について	7
接続図	8
リアパネルの機能	9
1. 電源コネクタ	9
2. 電源スイッチ	9
3. AC Select スイッチ	9
4. 入力端子	9
5. Input Sensitivity	10
6. Acoustic Space	10
7. Low Frequency フィルター	10
8. High Frequency フィルター	10
9. Power Mode	11
10. カスタムチューンド・リアポート	11
フロントパネルの機能	11
11. Power/Overload Indicator	11
保護回路	12
オーバーエクスカーション保護	12
熱保護	12
過負荷保護	12
インプットシグナルワイヤリング	12
お手入れとメンテナンス	12
付録 A：サービスについて	13
電源が入らない	13
音が出ない	13
音が良くない	13
ノイズ / ハム / バズ	13
付録 B：技術情報	14
XR シリーズ仕様書	14
XR624 寸法	15
XR824 寸法	15

XR シリーズの特徴

- ・プロフェッショナルレベルのパフォーマンス
 - ・対数関数計算されたウェーブガイドにより低域から高域まで周波数特性の優れたバランスのよいサウンドを実現
 - ・ハイパワーかつ明瞭度の高い低域の伸びを実現する ELP™ パスレフシステム
 - ・高域の明瞭度を向上させ、ミックスの細部を確実に表現することのできる 1 インチアルマイトアルミニウムツイーター
 - ・6.5 インチ (XR624) または 8 インチ (XR824) の Kevlar® ウーファは驚くほど早い低域の立ち上がりを実現し、低域を正確に再生
 - ・160W バイアンプクラス D パワーアンプを搭載 (100LF / 60HF)
 - ・周波数特性：45 Hz - 22 kHz (XR624) / 36 Hz - 22 kHz (XR824)
- ・あなたのミキシング環境にあわせて最適化が可能
 - ・設置条件に応じてフラットな周波数特性を実現する調整可能な Acoustic Space フィルター
 - ・部屋の音響特性に応じてブースト・カットが可能な HF フィルター
 - ・低域をカットし小型スピーカーをシュミレートすることができる LF フィルター
- ・細部に渡ってこだわりを
 - ・環境に優しい自動電源 ON/OFF 機能
 - ・初代 HR シリーズと同じく、クラシックな黒色木目仕上塗装
 - ・特別にデザインされた内部構造は、歪みを低減し高い明瞭度を実現
 - ・同梱されているアイソレーションパッドで、余計な反響を抑制し、低域レスポンスを向上

はじめに

音楽制作やミックス作業にこだわりを持っていますか？XR モニターシリーズは、これまでになくミックスを身近な体験にするべくデザインされました。

チューニングと開発に際限ない時間を費やし、優れた音響性能とアンプデザインによる高品質なコンポーネントを採用、信じられないほど正確でクリアな音源再生を可能にしました。あなたがモニタースピーカーを日常的に使用する時間はとても長いことでしょう。快適なリスニング環境を得るためには、まず従来のように耳障りな中高音を発するモニターを、より自然で心地よい音を再生するこのモニターシリーズに切り替えることから始めましょう。

今まで聴こえなかった音が細部に渡り聴こえるようになることは、音楽制作を根本から変えることとなります。対数関数計算されたウェーブガイドを搭載し、高域の放射パターンとウーファースのパターンを一致させ中高域の自然なつながりを実現しました。また、アクティブエリアがウーファースと同軸になるようにツイーターを本体の奥まった部分に配置し、高域と低域の完璧なバランスを実現しました。この正確なウェーブガイドデザインは、以前のミックスでは気付くことのできなかった部分まで明らかにするほどのレベル感度を提供します。

XR モニターシリーズは、プロフェッショナルレベルのパフォーマンスを実現するために開発されました。可能な限り正確でクリーンなローエンドを実現するため、XR シリーズは Kevlar® ウーファースを標準的に搭載しています。Kevlar® ウーファースは、典型的なタイプのウーファースから生成される共振周波数を実質的に排除し、明瞭度が高く非常にスムーズな低域を提供します。加えて、カスタムデザインされた ELP™ (Extended Length Port) パスレフシステムにより、低域の周波数レスポンスと出力能力を向上させ、どのミックスにおいても温かみのあるローエンドを提供できます。これは、通常よりも長めにデザインされた内部カーブを採用し、乱れのない気流を作り出すことにより実現しました。精巧さが求められる高域には、1 インチのアルマイトアルミニウムツイーターを搭載し、クリアで明瞭度の高い高音を提供します。また搭載している 160W のクラス D アンプにより、レコーディングスタジオで要求される高出力時でもクリーンで歪みのないパフォーマンスを実現します。

部屋の形状や構造、材質などが全く同じ部屋というものは存在しません。XR モニターは、フラットな周波数レスポンスを実現する精密にチューニングされた音響調整フィルターを搭載し、あなたのミキシング環境とサウンドを最適化します。Whole Space, Half Space、そして Quarter Space から選択できる 3 種類のフィルターにより、ほぼ全ての一般的なレコーディング環境に合わせることでできるフラットな周波数レスポンスを実現します。また、よりよいリスニング環境の構築のための、高域フィルターと低域フィルターを搭載しています。

細部に渡りこだわり抜き、いかなる部分にも妥協しないデザインを採用することで、本当のプロフェッショナルスタジオモニターが完成します。シンプルなボルトオンタイプのリアポートではなく、シャーシに完全に埋め込まれている独自設計のマウントを制作したことで、エレガントな見た目に加えて音響性能の飛躍的向上を実現

しました。また、環境に配慮した自動電源 ON/OFF 機能を搭載しており、信号が送られていない状態が続くとスタンバイモードとなり、信号を検知すると電源が入ります。フロントパネルの 2 色 LED は、精密に輝度の調整を行っており、モニターの状態を視覚的に確認することができます。クラシックな黒色木目仕上げ塗装と、頑丈な金属製のトグルスイッチにより、あらゆるスタジオに設置しても意匠を損わないデザインとなっています。

最適なミキシング作業を的確にサポート。それが Mackie XR シリーズです。

さまざまなアプリケーション

XR プロフェッショナルスタジオモニターシリーズは、さまざまなアプリケーションに使用できます。例えば：

- ・ホームレコーディングやプロジェクトスタジオ - ソロアーティストや小編成のバンド、DJ の音楽制作
- ・商用音楽スタジオ - ポストプロダクションの編集 / 音声や音楽制作のミックス、レコーディング、ミックスダウン、マスタリング
- ・放送局スタジオ - 音声のみの生放送 / ライブストリーミングやラジオや TV といった AV コンテンツ。ポッドキャストやオーディオストリーミング、ナレーションのプロダクション / ポストプロダクションに最適
- ・映像ポストプロダクション - CM や映像制作、ネット配信などに
- ・ホームシアターやその他のマルチメディア - 音楽や映画の再生や、テレビゲーム、パーティなどに

クイックスタート

すぐにでも XR シリーズを箱から取り出して音を鳴らしてみたいところですが、このページだけは読んでください。その他のページは必要になった時で構いません。

背面のスイッチやボリュームなどで様々なセッティングを行うことができますが、まずは工場出荷時の状態で構いません。

1. 電源を入れる前に、背面にある Input Sensitivity [5] レベルメーターを反時計回りに完全に回してください。
2. スピーカー背面のスイッチがオフになっている事を確認します。これによりケーブルを接続した際の突然の大音量ノイズを回避することができます。
3. Low Freq [7] と High Freq [8] フィルタースイッチは NORMAL ポジションにしてください。
4. ミキサー、プリアンプ、またはその他の音源のソースを、背面の TRS 入力端子もしくは XLR 入力端子 [4] に接続してください。
5. リアパネルの IEC コネクター [1] に付属の AC 電源コードを差し込み、もう一方の端を電源コンセントに接続して下さい。この時、必ず IEC コネクター付近に表示された仕様の電源に接続して下さい。
6. 音源ソース（8トラックプレイヤー、ターンテーブル、CD プレイヤー、DAW 等）を再生しますが、まだミキサーもしくはプリアンプのマスターボリュームは調整しないでください。
7. スピーカー背面の電源スイッチ [2] を入れてください。フロントパネルの電源 LED が点灯します。
8. Input Sensitivity [5] のつまみを、NORMAL (最大) ポジションまでゆっくりと時計回りに回してください。
9. ミキサーもしくはプリアンプのマスターボリュームを聞きやすい音量になるよう調整します。ミキサーもしくはプリアンプのマスターボリュームを少し調整した場合でもすぐに音量が大きくなってしまう場合、Input Sensitivity のつまみをセンター (12 時の方向) まで回し下げること、ミキサーもしくはプリアンプでコントロールできる幅が広がります。

XR シリーズの低域特性とコントロールルームに関する重要な事項

新しい XR モニターシリーズは、低域再生向けに最適化された部屋では最高の低域特性を実現します。しかし部屋の形状や大きさ、音響処理などさまざまな要素がからみあって XR シリーズの拡張された低域を損なう可能性があります。これは設計上の失敗を認めているわけでもなく、お詫びをしているわけでもありません。どこにでもある物理的な問題です。幸いにも、Mackie は皆様のお部屋でスピーカーの周波数特性を最適化するための補正コントロールを用意しました。私たちが設置や調整に行かなくても、以降の項目をご確認いただくことで最適なサウンドを実現することができますよ。

低周波レスポンス



XR モニターシリーズを部屋の隅に設置したり、壁面に近い場所に設置したりすると、低域の特性が変化します。壁の近くにモニターを設置すると、低周波の音量が誇張されます。また部屋の隅に設置すると、よりその影響は顕著になります。Acoustic Space [6] は正しく設定してください。正しく設定することで、ぼんやりした音や誇張された音をカットすることができます。

高周波レスポンス

XR モニターシリーズは中高域の滑らかな周波数レスポンスを実現するようにデザインされています。時と場合によっては、ミキシング中にもう少し高域がほしい、高域をカットしたいと思うことがあるでしょう。High Freq Filter [8] スイッチを使用することでツイーターからの高域をわずかにブーストしたり、カットしたりすることができます。高域をブーストするとぼんやりしたミックスを改善できたり、逆に高域をカットするときらびやかすぎるミックスを改善できる場合があります。

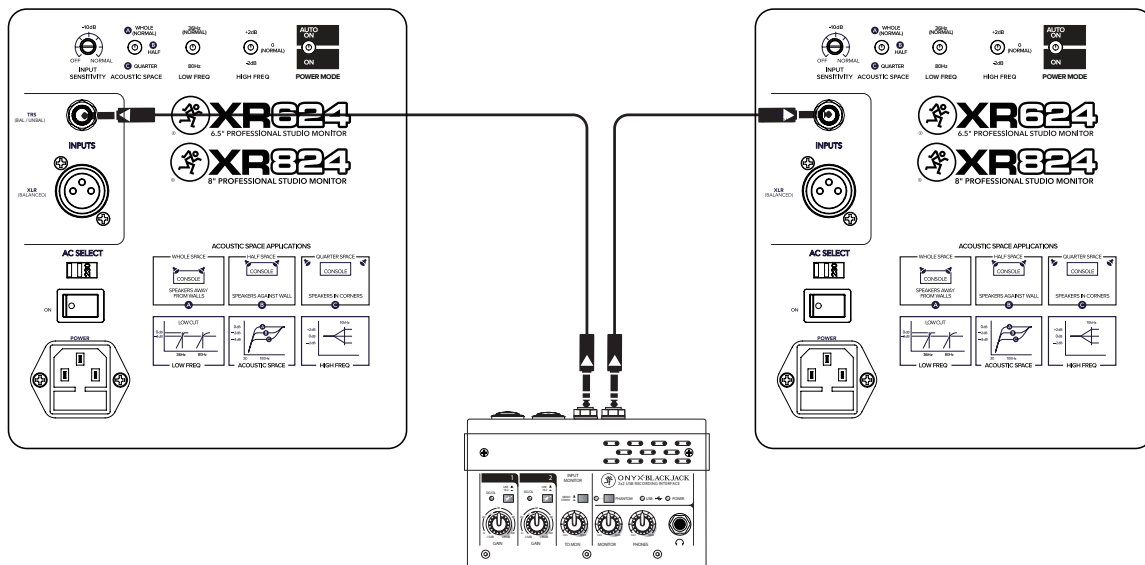
その他の注意

- ・長時間、大音量で音楽を聴かないで下さい。P.2 の安全条項をよく読んで下さい。
- ・一般的に機器の電源を切る際は、モニターの電源を最初に切ってください。あらゆる機器から発生される恐れのあるノイズを防ぐことができます。電源を入れる際は、モニターを最後に入れるようにして下さい。
- ・梱包箱は保管しておくことをおすすめします。将来必要になる時がくるかもしれません。
- ・保証書は大切に保管して下さい。紛失してしまった場合、保証の対象外となってしまう可能性があります。予めご了承下さい。

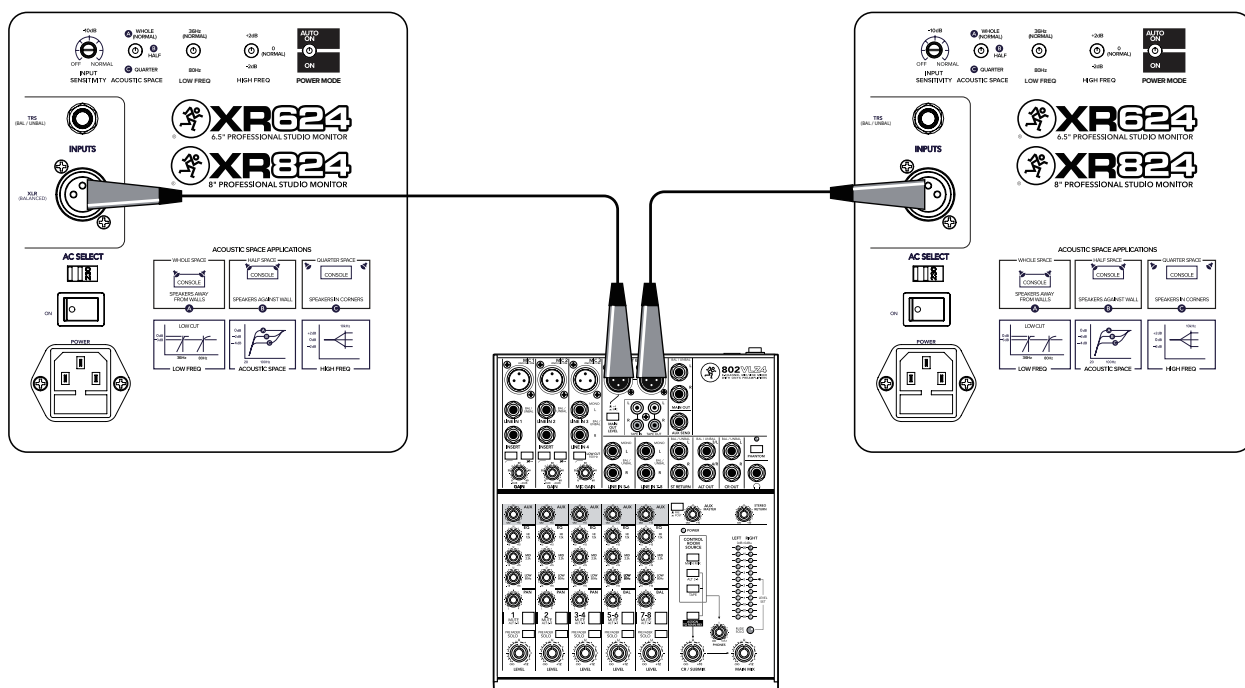
設置について

XR モニターシリーズは縦長に置くよう設計されています。側面を下にして横長に設置しなければならない場合は、ウーファーが内側になるように設置し、ウーファー同士を近付けてください。これにより最良の低域サミングと全体的な音像を実現することができます。

モニターを高い音圧でドライブするとき、内蔵のパワーアンプがわずかに熱を帯びる場合があります。パワーアンプはリアパネル・アセンブリの一部として組み込まれています。十分な換気機能を発揮するには、モニターのリア部分と壁の距離を最低でも 8 センチ程離して設置してください。



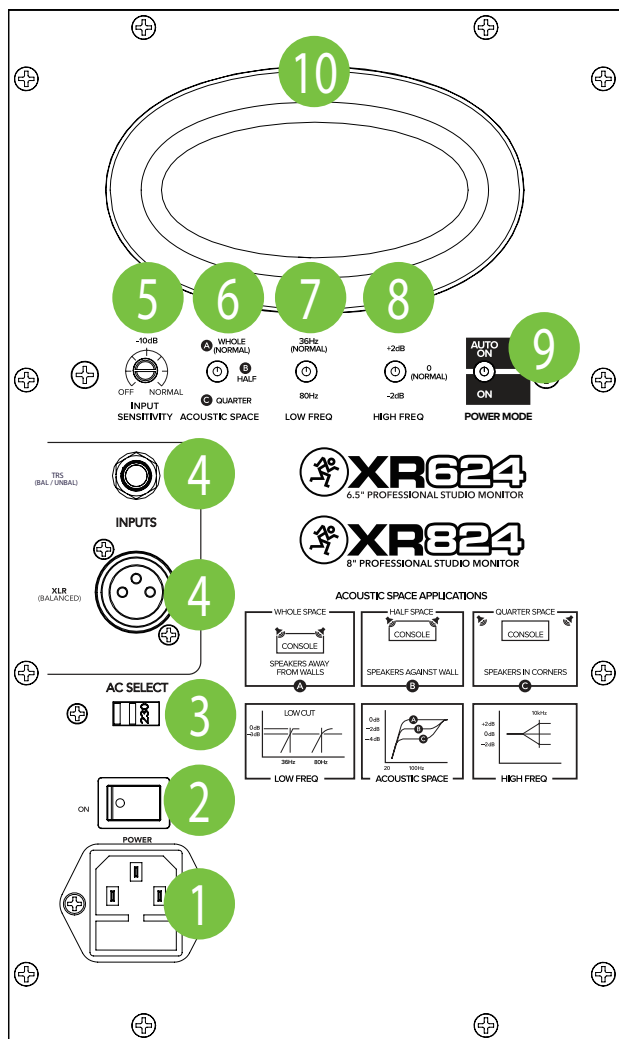
この図では、Onyx Blackjack が直接 2 本の XR モニターに接続されています。



この図では、802VLZ4 が直接 2 本の XR モニターに接続されています。

リアパネルの機能

リアパネルでは、モニターに信号を接続し、部屋の環境にあわせてスピーカーの周波数特性を調整することができます。



1. 電源コネクター

これは IEC に準拠した標準的な 3 ピンタイプの電源コネクターです。取り外し可能なラインコード（製品に同梱）を電源部分のレセプタクルに接続し、反対側をコンセントに接続します。

WARNING: 日本国内で使用する場合、AC 電源コードをモニターに接続する前に、AC Select [3] スイッチが「115」と表示されていることを確認してください。ヨーロッパなど 220-240V 圏で使用する場合はスイッチをスライドする際は、マイナスドライバーを用い電源コードを必ず抜いた状態で、行ってください。また 220-240V で使用する場合ヒューズを交換する必要があります。

WARNING: グラウンドピンを接続しないのは大変危険です。お止め下さい。

FUSE: XR モニターは回路保護のためにヒューズを搭載しています。ヒューズが飛んでしまった可能性がある場合、電源コードを抜き、ヒューズドローワー（電源コードレセプタクル部分）を引いたうえで、新しいヒューズ（T2.5AL/250V）と交換を行ってください。このヒューズはお近くの電気屋でお買い求め頂けます。T1.25AL/250V ヒューズは 220-240VAC に対応する地域で使用してください。

2. 電源スイッチ

このスイッチにより、モニター電源のオンもしくはオフの切り替えができます。リアパネルの Power Mode [9] が ON のポジションになっている時に使用できます。

- Power Mode スイッチが ON になっている場合、リアパネルの電源スイッチにより電源のオン/オフを切り替えることができます。
- Power Mode スイッチが AUTO ON になっている場合、有効な信号を感知していなくても、フロントパネルの電源スイッチにより電源を入れることができます。無信号状態がおよそ 15 分経続くと、アンプはスタンバイモードへと移行し、フロントパネルの LED は消灯します。

3. AC Select スイッチ

全世界の電源環境で 사용할 ことができるよう、100-120V と 220-240V（ヒューズ交換が必要）から選択することができます。日本国内で使用する場合、「115」と表示されていることを確認してください。

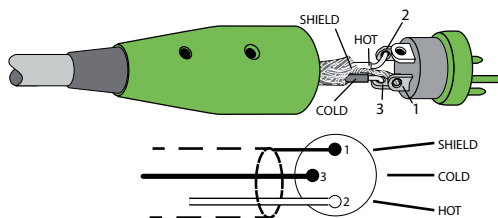
4. 入力端子

ミキサー、またはその他音源からのラインレベル出力をこれらの入力端子のどれかに接続します。端子には XLR と 1/4 インチフォンの 2 つのタイプがあります。

- XLR メスと TRS メス入力端子が付いています。
- これらの端子に複数のソースを接続しないでください。
- TRS 端子には、アンバランス TS（チップ - スリーブ）ケーブルを接続することができます。プラグの形状が TS タイプ（ギタープラグに似ている）なのか、TRS タイプ（ヘッドフォンプラグに似ている）でリングがスリーブに接続されているかを確認してください。また、プラグがジャックに奥までしっかりとさしこまれているかを確認してください。
- XLR と TRS の入力コネクターは、バランスまたはアンバランスの信号を受けることができます。各コネクターの配線は下記の通り（AES/IEC 規格通り）です。:

バランス XLR

ホット (+)	2 ピン
コールド (-)	3 ピン
シールド (グラウンド)	1 ピン



バランス XLR コネクター

バランス TRS フォン

ホット (+)

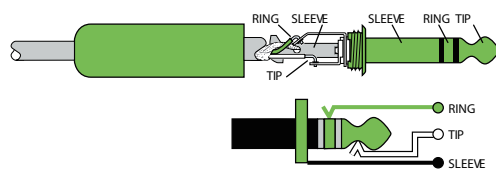
コールド (-)

シールド (グラウンド)

チップ

リング

スリーブ



バランス TRS フォン (1/4 インチ)

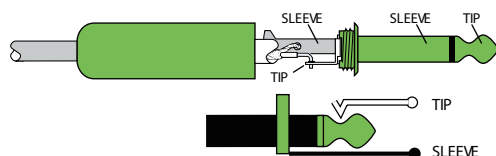
アンバランスフォン

ホット (+)

シールド (グラウンド)

チップ

スリーブ



アンバランスフォン (1/4 インチ)

5. Input Sensitivity

XR シリーズは、入力コネクタでラインレベルの信号を受けます。

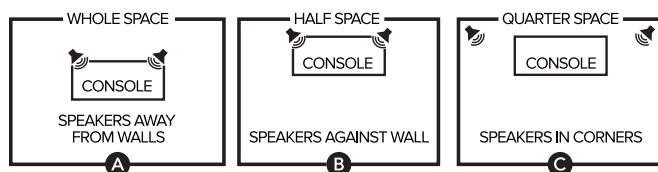
Input Sensitivity が Normal の位置になっているとき、+4 dBu の信号で動作するように設計されています。

レベル設定の手順は P.7 のクイックスタートセクションを参照してください。

6. Acoustic Space

3 ポジションの切り替えスイッチで、室内の設置場所により適正にモニターの低域特性を調整します。

ACOUSTIC SPACE APPLICATIONS



- ・モニターを比較的自由的な場所、つまり壁や隅から離れた場所に置く場合 (Whole: 全球形空間)、Acoustic Space スイッチを Whole (Normal) の位置にします。
- ・モニターを壁際に置く場合 (Half: 半球形空間)、Acoustic Space スイッチを Half の位置にします。この設定の場合、シェルビングフィルターで低域出力を 2 dB 抑えて半球形空間を補正します。
- ・モニターを部屋の隅に置く場合 (Quarter: 四半球形空間) は、低域出力が半球形空間のおよそ倍になります。この設定の場合 Acoustic Space スイッチを Quarter の位置にして、シェルビングフィルターで低域出力を 4 dB 抑えて半球形空間を補正します。

7. Low Frequency フィルター

Low Frequency フィルタースイッチは特性カーブに低域ロールオフを挿入します。

- ・低域を強調するサブウーファーがない場合は、45Hz (XR624)、36Hz (XR824) もしくは Normal ポジションに設定してください。
- ・このスイッチはミックスの低域成分に影響します。深いベース成分を取り除いて再生すれば、実際のファイナルミックスで低域が増大する場合があるなど、逆効果を及ぼすことも覚えておいてください。
- ・このスイッチの 80Hz の位置は特に低域の再生能力が限られた小さめのスピーカーをシュミレートしたものです。最終的にミックスを再生するスピーカーが小さい時、あるいはラジカセでミックスを聴いたときにどうなるかを試したいときに使います。

低域成分を取り除くということは、つまり全体的な出力レベルを多少は上げられるということです。低域の情報はアンプ出力の最大量を必要とするため、低域成分を制限することで中域のレベルを多少は上げることができるのです。クライアントがミキシングの音量を上げたがっているときに使ってみてください。

8. High Frequency フィルター

High Frequency フィルタースイッチは 10kHz 以上の全体的な高域特性を、± 2dB の範囲で調整できるものです。使用しないときは 0 (Normal) の位置にしてください。

- ・スピーカーのサウンドを少しだけ明るく、もしくは暗くしたいときに使います。
- ・ダブルスタックした Marshall の前であまりに多くの夜を過ごしてきたため、聴覚に異常をきたした人も中にはいるでしょう。
- ・ミックスの明るい面、もしくは鈍い面が好きだけの人もいます。

どの場所でミックスを聴いてもサウンドが鈍かったり暗かったりするときは、大抵通常の聴覚に対してモニターが明るすぎることを示しています。スイッチを -2dB にしてモニターの高域出力を減らすことで、これを解決することができます。

逆にミックスが一貫して明るすぎると感じる場合、モニターに高域エネルギーを追加することで、結果としてミックスに含まれる高域成分を減らすことができます。

モニターの音色は、他の機器で再生するミックスにも影響します。モニターはミックスを鏡のように映す効果があることを忘れないでください。ミックス中の音源が大きな音でモニターから再生されれば、結果として最終的にその音が不足することに繋がります。

最初は特性変更スイッチを工場出荷時の推奨設定にしておきます(クイックスタートセクションを参照してください)。長い時間リスニングした後で自分のミックスの傾向に気付いたら、ここで紹介した内容の通りに調整を行ってください。夢中で作ったミックスは、本当に音量が大きいものです。しかし結果としてのミックスは、少なくともその音量で再生したときだけ良い音に聴こえることを覚えておいてください。しかし不思議なことに、低めのレベルで作ったミックスは、実際の音量よりちょっと大きく再生しても良い音に聴こえることがあります。サウンドレベルメーターは忘れてしまいましょう。どのレベルでミックスを行うかを事前に決めてしまい、メーターはそのレベルにするための手助けとして使いましょう。これによりミックスは格段に良くなるのです。

9. Power Mode

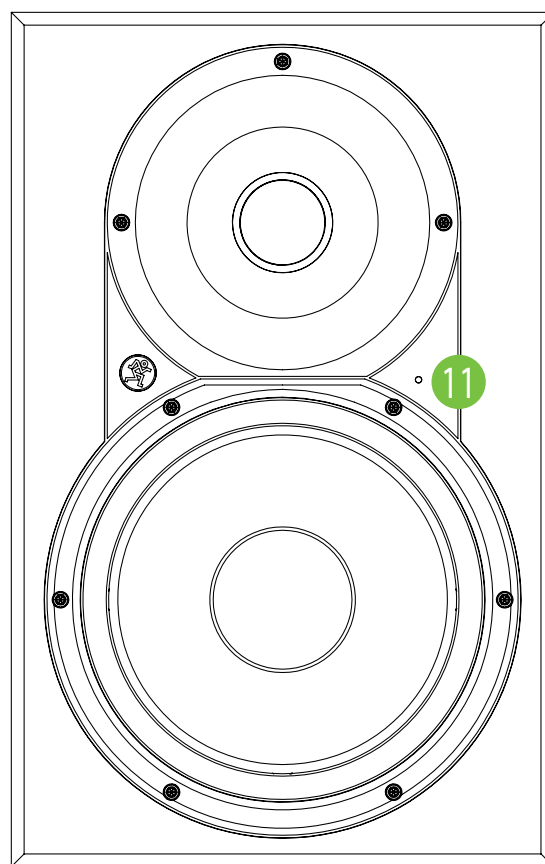
2 ポジションのスイッチで、アンプの電源を ON もしくは自動モードにすることができます。このスイッチを使って、お好みのモードで動作させてください。

- このスイッチを ON の位置にすると、パワーアンプに電源が入り通常どおりオペレートすることができます。(リアパネルの [2] 電源スイッチは ON の位置にしておく必要があります。)
- このスイッチを AUTO ON のポジションにすると、入力信号の有無によってアンプの ON および OFF が切り替わります。入力信号レベルが -45 dBu (最小) 以上入っているとき、自動 ON 機能が動作します。15 分以上無音の状態が続くと、自動 OFF 機能が動作します。フロントパネルの LED インジケーター [11] は、アンプのステータスを表示します。

10. カスタムチューンド・リアポート

XR モニターシリーズは ELP™ バスレフシステムを搭載し、特性に合わせて設計されたポートをリアパネルに開け、ウーファーコーンの後面から出る低域の音波を反転させて正相として放射させることで、低域レスポンスを向上しています。ポートのサイズはキャビネットのボリュームとウーファーの特徴に合わせて最適な大きさに設計されています。通常よりも長めにデザインされた内部カーブで、乱れない気流を実現しました。

フロントパネルの機能



11. Power/Overload Indicator

フロントの LED インジケーターは、アンプの電源が ON になった際に点灯し、スタンバイモードもしくは OFF になった際に消灯します。

過負荷保護回路が機能し始めると、LED が赤く点灯します。

- LED が時折赤く点滅する程度の場合は、瞬間的な最大音量の信号がアンプの最大駆動能力に達したことを意味しています。歪みが聴こえなければ問題はありません。
- 頻繁に、もしくは継続的に LED が点滅・点灯し続ける場合、スピーカーに許された最大駆動能力を超えたことを意味します。アンプがクリップし、過負荷保護回路が機能して入力レベルを下げています。赤い LED が時々点滅する、あるいは消えるまでシグナルソースからのレベルを下げてください。

保護回路

XR シリーズには、不注意による損傷からスピーカーを守るための保護メカニズムがいくつか搭載されています。



注意：プロテクション回路はある一定の状況下において、スピーカーを保護するためにデザインされています。もし警告サイン（過大な歪みなど）を無視することを選択した場合、アンプがクリップし始めるポイントを過ぎてオーバードライブを続け、スピーカーにダメージを与えることとなります。このようなダメージは保証対象外となりますのでご注意ください。

オーバーエクサージョン保護

低域アンプの直前にある 12 dB/Oct のハイパスフィルターは、アンプに届く信号のうちの超低域周波数をカットする役割があります。極端な低周波成分はウーファーにダメージを与える可能性があります。これはオーバーエクサージョンと呼ばれ、クリッピングが原因となっています。この場合スピーカーが損傷する恐れがありますのでご注意ください。

熱保護

全てのアンプは熱を生み出します。XR シリーズは電氣的・熱処理的の双方にとって能率が良いようデザインされています。

- 何らかの理由でヒートシンクが熱くなりすぎると、サーマルスイッチが起動しアンプの電源を自動的にシャットダウンさせます。
- ヒートシンクが安全な温度まで冷却されると、サーマルスイッチがリセットされ通常の動作モードへ戻ります。
- ヒートシンクが再び熱くなりすぎると、再度アンプの電源を自動的にシャットダウンさせます。この状況が繰り返されてしまう場合、本体背後で空気の流れが妨げられていないかを確認してください。

過負荷保護

- 過負荷 LED インジケーター [11] が頻繁に点滅しているとき、ミキサーもしくはその他の音源ソースからの信号レベルを下げてください。
- 過負荷 LED インジケーターの点滅は、ドライバーの熱過負荷保護回路がコンプレッサーを動作させていることを意味します。この回路が動作すると、アンプへの入力レベルが低減されます。
- このコンプレッサーはスピーカーを保護するよう設計されているもので、動作するとはっきり聴き取ることができます。このように過入力状態が続くと、スピーカーが損傷する恐れがあります。このような場合の不具合は保証対象外になります。

インプットシグナルワイヤリング

XR シリーズの入力端子 [4] に信号ソースを接続する際は、高品質なシールドケーブルを用意してください。背面にある 2 つのタイプのコネクタは、一般的なケーブルであれば殆ど全てのタイプを接続することができます。

- XLR 入力端子には、バランスタイプのマイクケーブルが最適です。
- 1/4 インチ入力端子には、バランスタイプの TRS ケーブルが最適です。

NOTE: オーディオケーブルを電源ケーブルやコンセントなど、電磁干渉を発生するものの近くに置かないで下さい。これらはハムノイズの原因となります。壁面上のコンセント付近や、複数のケーブルが束になって置かれているような場所に設置すると、ハムノイズを拾ってしまう可能性が高くなります。

注意：パワーアンプの出力からの信号を直接 XR シリーズに接続しないで下さい！パワーアンプの信号はラインレベルの信号よりも大きいので、XR シリーズの入力回路を損傷させる恐れがあります。

お手入れとメンテナンス

XR スタジオモニターシリーズは、下記のガイドラインに従って使用されている限り、長年にわたって信頼性の高いサービスを提供します。

- このモニタースピーカーを霧にさらさないでください。
- 極端に温度が低い場所（氷点下）に置かないでください。
- キャビネットのお手入れには、乾いた清潔な布だけをお使いください。また、お手入れする際は事前に電源が確実に切れていることを確かめてください。

付録 A：サービスについて

モニタースピーカーに問題が発生した場合は、下記の「トラブルシューティング」を参照して問題点をご確認ください。弊社ウェブサイトのサポートセクションをご覧ください (<http://mackie-jp.com/support>)。下記の内容に沿って状況を確認しても問題が解決しない場合、または明らかに製品が故障している場合は、ただちに使用を中止してこの製品をお求めの販売代理店まで修理をご依頼下さい。

トラブルシューティング

電源が入らない

- 私たちの大好きな質問です。AC コードは接続されていますか？
- 電源ケーブルがソケット [1] の奥までしっかりと挿し込まれていますか？
- コンセントが電力を供給しているかテスターなどで確認して下さい。
- Power Mode スイッチ [9] が適切な設定になっており、電源スイッチ [2] は ON になっていますか。
- フロントパネルの電源 LED [11] は点灯していますか？点灯していない場合は、コンセントから電力が供給されているか確認して下さい。点灯している場合は、下記の「音が出ない」をご覧ください。
- 電源 LED が点灯しておらず、コンセントに問題がないことが分かっている場合、モニタースピーカーに不具合がある可能性があります。その際は弊社までご連絡ください。内部のパーツは基本的にユーザー自身に取り替えることができるようにはなっていません。セクションの終わりにコンタクト先を記載しておりますので、弊社までご連絡ください。

音が出ない

- フロントパネルの電源 LED [11] は点灯していますか？点灯していない場合は、上記の「電源が入らない」をご覧ください。
- Input Sensitivity ノブ [5] は上がっていますか？
- 音源の音量は上がっていますか？ミキサー（もしくはその他の接続されているデバイス）の音量が十分に上がっているか確認してください。
- ステレオペアとして使用している場合は、左右のスピーカーを入れ替えてみてください。例えば左のスピーカーから音が出ないと仮定した場合、スピーカー側で左右のケーブルを入れ替えて下さい。音が鳴った場合、原因はモニターではありません。ケーブルや音源に問題がある可能性があります。

音が良くない

- 入力コネクタがジャックに最後までしっかり挿し込まれていますか？ 1/4 インチ TS プラグもしくは TRS プラグを使っている場合、奥までしっかりと挿し込まれているか確認してください。
- 音量が大きくて歪んでいますか？ソースの音量が適切なレベルに調整されているか確認してください。
- 可能であれば、ヘッドフォンでプリアンプ段階の音源を確認してください。もしそこで音が悪ければ、モニター以外に原因があることが考えられます。
- 低域が過過ぎている、もしくは低域が足りないと感じますか？モニターの配置場所を変えて、低域のレスポンスが変化するかどうか確認してください。部屋の形状によって低域がブーミーになったり、逆に薄く聴こえてしまうことがあります。その場合はモニターの位置を変更するか、リスニングポジションを変更してみてください。

ノイズ/ハム/バズ

- ミキサーとモニター間の接続に問題がないか確認してください。全ての接続に問題はありますか？ケーブルがしっかり接続されていないとノイズの原因になる場合があります。
- アンバランス出力を XR モニターのバランス入力に接続している場合、シールドがソースのグラウンドと XLR のピン 1/ ピン 3（または TRS ジャックのスリーブとリング）に接続されていることを確認してください。
- CATV ケーブルがシステムに接続されている場合は外してください。これでハムが消える場合、ケーブルテレビ会社にケーブルの接地状況を確認するよう依頼してください。
- 信号ケーブルを電源コードや電源トランスなど電磁干渉を発生するものの近くに設置しないで下さい。これらはしばしばノイズの原因となることがあります。
- スピーカーと同じ電源回路に、照明用のディマーや SCR ベースの機器を接続していませんか？ディマーはしばしばバズノイズの原因となります。AC 電源フィルターを使うか、スピーカーを別の AC 電源回路に接続して下さい。
- ヒスノイズが発生している場合、スピーカーへ入力される前の段階でゲイン設定が適切に行われていない可能性があります。
- 可能であれば、XR シリーズに接続されている音源に直接ヘッドフォンを差して音を確認してください。そこでノイズが確認できた場合、原因はモニターではありません。

ご不明な点は…

- mackie-jp.com にアクセスしてサポートの項目をご覧ください。
- support_mackie@otk.co.jp までメールをお寄せください。
- テクニカルサポートセンターにお電話ください。
- 日本語：04-2944-3811（月～金曜、9am～6pm）
- 英語：1-800-898-3211（月～金曜、営業時間 PST）

付録 B：技術情報

XR シリーズ仕様書

音響性能

周波数特性 (-3 dB):	45 Hz - 22 kHz [XR624] 36 Hz - 22 kHz [XR824]
音圧レベル @ 1m, +4 dBu バランス入力	107 dB SPL @ 1m [XR624] 109 dB SPL @ 1m [XR824]
最大音圧レベル (ペア)	113 dB SPL @ 1m [XR624] 115 dB SPL @ 1m [XR824]

トランスデューサー

低域ドライバー	6.5 インチ / 165 mm Kevlar® woofer [XR624] 8.0 インチ / 203 mm Kevlar® woofer [XR824]
高域ドライバー	1 インチ / 25 mm ブラック アルマイトアルミニウムツイーター

アンプ

低域用パワーアンプ	100 W
高域用パワーアンプ	60 W
タイプ	クラス D パワーアンプ

クロスオーバー

クロスオーバータイプ	リンクウィッツ・ライリー 24 dB/oct
クロスオーバー周波数	2.7 kHz [XR624] 2.2 kHz [XR824]

イコライゼーション

低域 EQ	-3 dB @ 45 Hz [XR624] -3 dB @ 36 Hz [XR824] -3 dB @ 80 Hz
高域 EQ	± 2 dB @ 10 kHz, シェルビング
Acoustic Space フィルター	Whole: Flat Half: -2 dB @ 100 Hz Quarter: -4 dB @ 100 Hz

入力タイプ

入力インピーダンス:	20 k Ω バランスブリッジング 10 k Ω アンバランス
入力タイプ:	差動バランス (XLR, 1/4 インチ TRS)
入力保護:	RFI (電波干渉) および レベルプロテクト
最大入力レベル:	+20 dBu

AC 電源

AC コネクター:	3 ピン IEC 250 VAC, 16 A male 100 - 120 VAC, 50 - 60 Hz, 150W 220 - 240 VAC, 50 - 60 Hz, 150W
ヒューズ	115 VAC: T 2.5 AL / 250 V 230 VAC: T 1.25 AL / 250 V (230VAC 用ヒューズは別途ご用意ください)
自動 ON/OFF スタンバイモード	<0.5 W

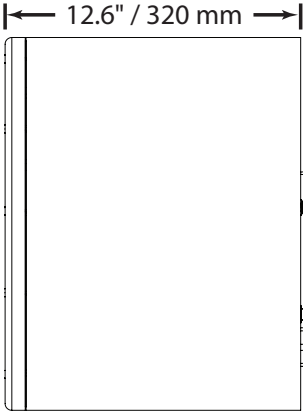
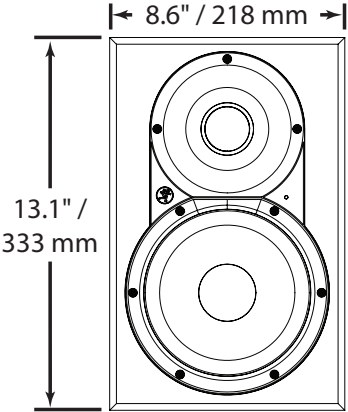
寸法・重量

エンクロージャー:	MDF 製キャビネット、内部の梁で 強度を向上
ダンピング:	オープンセル断熱材フォーム
フィニッシュ:	黒色木目仕上塗装
XR624	
高さ:	333 mm
横幅:	218 mm
奥行き:	320 mm
重量:	10.6 kg
XR824	
高さ:	427 mm
横幅:	274 mm
奥行き:	351 mm
重量:	15.7 kg

LOUD Technologies 社は、常に新しい素材、部品、製造方法を取り入れて製品を改善するよう努めているため、製品の外観および仕様は予告なく変更することがあります。

「ランニングマン」、「Running Man」は LOUD Technologies 社の登録商標です。他の商品名または会社名は各社の商標または登録商標です。

XR624 寸法



XR824 寸法

